

入賞作品

一般實話

地

開關以來の握手

三重縣四日市市新町

大鳥重敬

三重愛知兩縣を境する三大川、詳しくは伊勢と尾張との間を流るゝ木曾揖斐長良三川には、建國以來橋梁と云ふものが曾てなかつたので、五十三次の東海道も、桑名から宮までは、海上七里の渡しを船で越したものである。世が明治となり、大正となつても、此處ばかりは依然として、詩情豊かな渡舟に依つて連絡されて居た、従つて手車や自

轉車なら辛ふじて越せたけれども、殆んど半日を費さねばならなかつた。そして自動車や荷馬車の渡河など思ひもよらぬ、已むを得ないから、人間も荷物も悉く、只つた一線しかない關西鐵道に頼るの外はなかつた。之れが爲め川を隔てゝ、言葉までが、尾張側はアノナモであり、伊勢地はアノナと違ふやうに、總ての人情風俗を異にせるは勿論、産業上の連絡など、全く遮斷杜絶の状態であつた。

然るに昭和七年五月に至り、工費百五十萬圓を以て、先づ木曾川に尾張大橋が架設せられ、次で昭和九年四月には總工費百七十五萬圓を要した伊勢大橋が揖斐長良の兩川を跨ぐこととなつたので、開關以來茲に始めて、伊勢と尾張とは、この蜿々長蛇の如き虹の兩橋に依つて、陸上完全に握手することが出来るやうになつた。

謂ふまでもなく、此の路線は宮城と大神宮とを繋ぐ、所

謂國道一號線であつて、架橋竣工と前後して、愛知三重兩縣下路線の改修工事が年々行はれ、目下三重縣管内に多少未着手の箇所を剩して居るが、夫れも來るべき皇紀二千六百年大祭までには、鋪裝された垣々砥の如き大道が、完全に新粧を凝らすこととなつて居る。この三大川架橋國道改修の結果今まで霞を隔て、花を見る如くであつた。中部日本の首都名古屋と伊勢地方との文化的文涉が頻繁となつたことや、又劃期的交通機關の整備に伴ふ産業經濟發展の上にも顕著な事實なので、今更茲にその悉くを叙し難いが、其中只つた一つだけ、恰好な適例を擧げて見度い。

沼波弄山の流れを掬む四日市萬古燒の生産高は、最近年額七百萬圓を突破し、遠く海外にまで輸出されて居るが、之れが所要原料たる陶土は約五萬噸に達し、その中愛知縣の瀬戸地方から移入さるゝもの丈けでも、年額三萬三千五百噸の多きに及んで居る。之等の陶土は、以前なら瀬戸の採掘場から瀬戸電鐵驛に運搬されて、電車便で中央線大會

根驛に運ばれ更に鐵道に積換へられた上、名古屋驛で關西線に路線換へを爲し、桑名驛まで來て、今度は再び伊勢電鐵の手に移り、阿倉川驛に到着したもので、出荷から到着までに要する日子は、最善の場合、尙且四日間を要した上に、その値段は、採掘場から瀬戸電驛まで一噸當り九十錢、夫れから電鐵及鐵道の連帶運賃が二圓十六錢、發送驛貨車積込料が五十錢着驛貨車卸賃が四十錢着驛から工場までの引込賃が四十錢、合計四圓三十六錢を要したものである。

然るに國道開通以來、陶土の運搬は全部自動車に依ることとなつたので、採掘場から工場までの所要時間僅かに四時間、一噸當りの原價二圓五十錢から三圓までで供給されることとなり、一噸に付一圓五十錢内外の利益を見ることがなつた、尤もこの陶土の自動車輸送は、單に瀬戸地方ばかりでない、遠く三河の猿投附近のものも同様であるが、モット面白い話は、從來四日市地方には、所謂伊勢表と稱ふる壘の製造が相當熾んであつて、殊に最近操業の機械化により、製造高が著るしく増加し、延て生産の過剩は需給の

調節を破るの状態にあつた、然るに之れ又國道開通以來、貨物自動車一臺に疊百枚宛を積んで、岡崎市まで運搬する運賃が十圓だから、一枚の運賃が十錢に過ぎないので、從來汽車積に依る一枚の運賃諸係二十五錢を要した爲め、採算上到底引合はなかつたものまでが、有利化された上に、

このトラックは歸途瀬戸へ廻つて、陶土を積んで歸ると云ふ一石二鳥の活動が出来るやうになつたことである。

而かし昭和十一年度までの國道改修は伊勢大橋から四日市市の北郊羽津村地内までであるため、伊勢灣内の重要國際貿易港であり、同時に日本羊毛工業上特種の地位にある附近大工場生産毛糸の搬出等に關し、多大の不便不利を免かれないものがあるので、所謂佛を造つて魂を入れないものだとして、地元では熱心に之れが實現を待望して居るが、この國道連絡が完全に達成された時は、大局高所より見て、四日市港と名古屋市との産業上の交渉が一層密接不離のものとなることは、神戸大阪間に於ける阪神國道以上のものがあらうと一般に信ぜられて居る。

無 題

大阪府土木部道路課

浪 華 ヅ 子

堺市の東南五里紀泉山脈の一支脈がスーツと北に延びて河内和泉の國界をなす南朝遺跡として名高い天野山、その天野山の裏山に平和な生を謳歌している仙郷がある。大阪府泉北郡上神谷村字畑と云ふ二部落で、戸數七十四人口四百餘を算するに過ぎないが、峠から眺める里の有様は全く日本畫によくある夢の様な山村の景色其儘であり里に足を入れれば驚く計り生き／＼とした氣分が溢れてゐる。然し、かくも立派な里になつたのは、只時の流れに掉して自然になつたのではない。こゝまでになるには一朝一夕ではなかつた。愛郷の一念から行なつた道路改良の路線選定が因をなして、部落内紛争に紛争を重ね、遂に隣保の指彈を受け、孤立無援に過ぎたること十數年、再び道路改良斷行によつ

て和解し、元の平和に立戻つたと云ふ挿話を織混せて、道路改良による利益を今日では充分に享受し得たからである。

話は二十餘年の昔に遡る。當時は村役場へ出るにも一里の山村を通らねばならない。而も幅員は三尺あるやなし、丘陵を縫ふて上つたり、下つたり、従つて勾配も相當急である。春の花秋の紅葉を賞しつゝ、「ハイク」するには好適の道ではあるが、産業的には一顧の價値なく、物資の搬入搬出は總て人肩による外なく、産業の振興、村の更生を計つたこと、運搬費に食はれて利潤なく、疲弊の度を加ふるに過ぎない。生にあへぐ住民は漸次離郷し始め、戸數減少の趨勢を辿ることとなつて來た。この趨勢を憂へた村の有志は總ての産業的施設よりも道路の改良を最急務なりと認め、村當局を動かして道路改良計畫を樹て、明治四十四年待望の道路工事は工を起さるゝことゝなつたのであつた。然るに起工以來僅に二ケ年にして早くも路線の選定に物議を醸し、議容易に決せず、遂に個人的利害關係表面化し、

全く收拾することが出来なくなつてしまつた。爾來部落は全く二派に分れ如何なる調停にも應ぜず、紛争の白熱化すると共に、親族も其の關係を斷ち、近隣は路傍の人と變じ冠婚葬祭にも立寄らず、朝夕の挨拶をすら交さず、鎮守の祭禮は爲めに中絶するに至り殺氣村内に漲り暴力沙汰に及ぶこと幾度なるを知らず、遂に刑事事件を誘發し裁判所にて係争すること二ケ年に及び、處罰せらるゝ者數十名に達する等問題は増々深刻化する計りであつた。

大正九年道路法實施に際し、問題の道路は府縣道天野山堺線として認定せられたので、府は一石二鳥の策を樹て、村當局と再三協議を遂げ、紛争地域全線に亘り府の裁斷により改良路線を選定し、道路改良を行ふと共に一舉紛争を根絶せしむるの計畫を以て大正十四年其の一步を印したのであつた。爾後六ケ年一意所信を斷行し、資を投ずる三萬五千圓昭和五年に至り問題の道路全線は幅員四米五最急勾配十分の一で物の見事に完成してしまつた。こゝに於て十有九年血の紛争を續けて來た兩派は醒めた。新道路成る

の日雨派は一切の過去を捨て、新道路上に於て相會し和衷協同榮光ある村たらしめんことを誓ひ相擁して泣いた。喜んで泣いた。そして和解のくれたのを悔いて泣いた。

畑部落は紛擾の裡から救はれた。しかも道路改良工事の完成は自動車部を運行するし、物資の搬入搬出意の儘だ。運賃の低廉も昔日の比ではない。運賃のみの利益を調査するに、次表の如く一ケ年二千餘圓の利益を生じ、一戸平均三十圓餘が座しながら懐に入ることになる。

道路改良前後運賃比較 (改良の實績調査に依る)

| 種目 | 搬出入の別 | 搬入出數量 | 道路改良前運賃 | 道路改良後運賃 | 差引 |
|------|-------|--------|---------|---------|-----|
| 米 | 搬出 | 五六〇石 | 五六〇円 | 一八四 | 三七六 |
| 木材 | " | 九六〇駄 | 九六七 | 二七〇 | 六九七 |
| 薪 | " | 四〇〇 | 四〇〇 | 一一二 | 二八八 |
| 葉煙草 | " | 二、五〇〇 | 六二 | 一七 | 四五 |
| 果實 | " | 五、二〇〇 | 一三〇 | 三〇 | 一〇〇 |
| 肥料 | 搬入 | 一六、六六八 | 五三三 | 一一六 | 四一七 |
| 石炭 | " | 五〇、〇〇〇 | 二〇〇 | 五六 | 一四四 |
| 建築用材 | " | 二五〇 | 二五〇 | 七〇 | 一八〇 |
| 計 | | | 101 | 55 | 111 |

運賃のみで如斯、他の利便利益は有形無形に計り知る能はずと云つてよい。卑近の一例を擧げて見ると、山間の僻地醫者なき部落のこととて道路改良工事完成前は、急病人でもあれば、村備付の駕持參で醫者を招き、往診料三圓を要したのであつたが、工事完成後はお駕持參も不要自轉車で一走して依頼に行けば、お醫者様も自轉車で往診、手輕さこの上なしの上に往診料も前々の半額となつたと云ふ有様斯様に萬事が萬事農家の生計に好影響をもたらし信用組合の預金尻だけでも二萬五千餘圓、一戸平均三百七十圓に上り、皆二派に分れて争ひ疲れた當時に比べて、誠に今昔の感に堪へない程太つて來た。

恵まれた村民は、平和になつたのも、利益を享受するに至つたのも、皆道路の恩恵であると、感謝の念は愛道の精神に歸して我等の道を我等で護れと、道路愛護會を組織し道路の維持に全力を盡し、朝夕しばし奉仕の道普請を現實に行ひつゝ平和の里に幸多かれと、日夜家業にいそしんでゐる。

子供の手で村中の道路が佐

賀縣一となつたお話

佐賀縣小城郡牛津尋常小學校長

光岡嘉一

これはもう一昔前のこと、さう——時にしまして大正十四年、丁度私が東多久小學校長時代にあつたことなのです。

× × ×

それも、か弱い子供の手で村中の道路が佐賀縣一となつたといふのですから……或はお疑ひになるかも知りませんが、まあ、聞いて下さい。事實はこうなんです。

× × ×

佐賀市を北西へ約六里の地、唐津線で小城を過ぎ峠を喘ぎ越すと高峰天山を北に負ひ小高い山をぐるりと圍らした盆地に出ます。ここが、所謂東多久村であります。

その頃のこの村の學校の兒童達が各部落で日曜毎に早起會

を催し村中の路道を分擔してお掃除と小さい修繕を續けてゐました。

といふのは——

この東多久村には炭坑があつて一時は素晴らしい景氣をよんだのですが、丁度此頃、廢坑の悲運に遭ひ、その直後のことと一瞬にして荒涼たる風景と化しゆく中に幾條も

の道路が又同じやうなヒドイ姿で横たはつてゐました。一番困るのは子供達です。最も可愛想なのも兒童連です。毎日毎日のわけて雨の日風の日の通學にどれ程困つたとせう。

それはそれは想像以上の難澁を味はつたんですよと今に人々はしみじみ語ります。

「ぬかるみにころんで奉仕思ひ立ち」とか、いつしか兒童の腦裡にはよき道を希求する熱意が湧きそれがやがては道路愛護の念へと導いたのであります。

× × ×

が、然し——

毎週一回の早起會で、而も子供の細腕でこの悪道路が良くなる筈はありません。

それは或る寒い冬の朝のことです。

感激性の人一倍強い分會長さんがこの兒童の早起會を巡視なさつたのです。

ところがどうでせう。

薄明の冷やつこい地上のそここに、うごめく黒い頭、頭、頭——女の生徒もある、小さい二年位の男の兒もまぢつてゐる、——高らかな唄、

『支度身輕に心を揃へ』と調子をあはせ、力一杯、元氣一杯に箒を握り鋏を振つてゐるではありませんか。

雄々しくも麗はしい而もいぢらしい兒童達のこの真心と根氣にすつかり感激された分會長さん、早速其夜、臨時の役員會を開き、道路改修、奉仕作業を提唱し誠意ある賛同を希はれたことは申すまでもありません。

『負ふた子に教へられるとは、このこつたい。』

役員連中とて日頃子供の道路愛護の發露を知らない筈はなく、かててこの分會長の熱辯に拍車をかけられ、『善事は急げ』と

村中で一番悪い古賀區の一部を分會員總動員で一日奉仕作業が行はれたのでした。

一體、此處は古賀區内であるが、この區の人よりもむしろ批把で名高い納所區の人の主要通路であるため、お互に放任してゐた所謂、「我利地獄」で一寸した小雨でも、もう自轉車は擔がねばならぬ程の難路でしたのに、僅か一日の奉仕で大雨でも平氣で自轉車の通る「奉仕天國」と變つたのです。

さあ、

こうなると人は妙なものです。こんどは、優良支部と云はれる古賀區の青年が立ちあがつて、『黙つてみてをられるか』と率先中心となつて區内總出で賑々しく三日も四日も夫役の鋏が力強く振りあげられ、かくて、ひどかつた古賀區の道路は皆完全に改善されて終ひました。

『俺たち部落も古賀ン區に負けるよぢや、不甲斐ない話だ
5。』

と次に悪い道の寶藏寺線が、寶藏寺區民の協力と熱誠で
これまた徹底的に改修されたかと思ふと——仁位所線——
羽佐間線——石原線——納所線——と競争的に道路が改善
され、ここに學校を中心に東多久村中の道路がもの見事
に改修改良され、思へばさきにあれほど、難澁をなめた子
供等の學校通ひが、うつてかはつて安全な楽しいものにな
りました。

かくて道路は完璧に光り輝くものとなりましたが、今一
つ子供等にめぐまれないものがありました——曰く、運動
場でした。

「こんだア親からバイ」と、村人の尊い汗で奉仕の砂が、
つぎつぎに山と盛られてゆき、かくて快適な運動場が、兒
童等の眼に人々の眼に喜びを與へました。

×

×

恰もよし、

昭和三年、縣の大事業として道路共進會が催されこの東
多久村も出品したのであります。

ところが、皆さん何と有難いことに審査の結果は特別優
等賞金參百圓を頂いて佐賀縣一と折紙をつけられたので
す。

村中の人々が歡喜の裡にまづ浮んだものは何でありませ
うか。この榮譽の種を蒔いてくれたあの曉に冷い歎をふつ
た可憐な兒童の姿でなくしてどうしませう。

祝ひの大饅頭は子供達の兩手に童心溢る顔を映してのつ
かり、祝賀の式典はいと華やかに又盛に催されたのであり
ます。

×

×

今も尙、東多久村の道路は見事にうねうねと通じてゐま
す。砂利がきらりと美しくきらめいてゐます。

私は東多久を通る度に當時の事を憶ひ出して心からの愉
悦を禁じ得ないのであります。

歌一首

『奉仕作業終えて並びし兒らの面に暁の光今さしてきぬ』

道路の改良効果

大阪府下吹田町宮之前八五一

所 祭 吉

改良道路が、村の開発に、如何に重大な役割を持つものであるか——と云ふ事を、僕は自分の故郷によつて、しみじみと知り得た者である。

岐阜市から、西北約四十軒の地點に、谷波、長瀬、深坂と稱する部落がある。僕の生れ故郷は、ここに在るが、之等の部落は、その名の示すが如く、坂險しく谷深く、今でこそ電燈なども灯つて、村人は文化の恩恵の末梢を蒙つてゐるが、こゝ十年程前までは、凡そ都會人などには、想像も出来ない邊鄙さであつた。

ある年、ある縣立中學の入學試験の綴方に、「郵便局」と課題された。受験者の一人であつた、この村の某有力者の

仲は、郵便局なんか知らない、と云つて泣き出してつたと云ふ話もあるし、子供に一度電車や汽車を見せてやりたい」と、歎いた親もある。凡そ笑へぬ喜劇である。

之等は餘談に過ぎないが、この部落の人達が、如何に僻陬にあるかを證明する事實として、提供した譯である。

この部落の人達は、戸數各々百五十、人口も七八百程づゝを有し、炭焼きと養蠶を生業とし、農を副業としてゐるが、農業と云つても、山間の枯瘦した土地を開拓して、苗を植付けるのであつて、一戸當り二反歩にも足らず、而も一反歩の收穫が、やつと一石にも充たない現状であつた、之では、一家族が、半年は愚か、三ヶ月の糧にさへ足らない。そこで村人達は、生産した薪炭や、蠶繭を遠い町に搬出して、それを米麥や日用品に換へるのであるが、さて、之等を運搬するにも、駄馬の背を借りて、險坂を上下するか、或は自らの脊に負つて、羊腸の様な小徑を辿りながら、トボくと歩かねばならない始末である。

こんな有様で、折角勞して得た僅の報酬も、大半は町へ

の奉仕になつて了ふと云ふ慘めさである。

律義な村人達の、弛まない研究によつて、品質のいい薪炭が、年々豊富に生産されるのであるが、こんな理由によつて、村の經濟状態には、さつぱり活氣がない。

「いい道が欲しい」「山が開鑿したい」之は村人の久しい間の念願であつたが、莫大な經費の前に、遲疑屈服せざるを得なかつたのである。

ある年——それは、昭和二年三月であつたが、この村の出身者で、今では、北海道奥地の豪農として、相當の成功をしてゐる。村松竹次郎氏が、燃える様な愛郷心から「道路を改良しろ」と、ボンと二萬圓を投げ出した。この美しい郷土愛の一石は、忽ち大きな波紋を畫き、遠郷近在の、この村々に、直接關係のある者もない者も、競ふて淨財を醸出し、之等を合して、その年の秋頃には、二萬五千數百圓と云ふ、寄附金が奉加帳に記入されたのである。

村の黎明！ 祝福と歡喜の中に、道路の開鑿が初まつたのは、昭和三年五月中旬であつた。山を崩し、丘を拓き、

樹木を倒して、南、富秋村に通ずる、八杆の小徑を、幅員三米の坦々たる道路に改良しやうとするのである。

募集に應じた人夫と、村人の義務的な努力と、折柄農繁期にありながら、近郷からの美しい應援が之に合して、毎日百數十の人々が、日の傾くのも知らずに骨折つた。この大工事に、弛まんとする氣力は、徐々に築かれて行く道路によつて、更に活氣を吹き返し、人々の盡きる事を知らない大努力によつて次第々々に完成して行つた。

誠に思ふ念力は巖をも通すもの、精神一到何事も成らざるはなく、案じられたこの大難工事は、遂に昭和四年四月下旬に至つて、遂に見事に征服されて了つた。藪川にも立派に架橋された、この村と、富秋村を通ずる縣道とは、村の前途を約束するかの如く握手した。

この工事に費された日子は滿一ヶ年、人夫延人員六萬二千三百人。この費用約三萬圓で、比較的僅少であつたのは、村人は勿論、近郷からの篤志奉仕が過半數であつたからである。この他架橋費、その他材料費、機械賃借費等々

を合して約三萬五千圓、一年の日子と、六萬餘圓の費用によつて、この部落の人達の躍進は約束されたのである。村人には、約四萬圓の借財が負はされたが、十年償還の約束のため、村人は一日も早く之を完済すべく刻苦奮勵してゐる。

さて、この完全なる道路が構築された事によつて、その年の暮には、遠く岐阜、或は大垣の町等から、トラック等が盛に出入する様になり、村人の生産した薪炭、蠶繭等は、大量づゝ町へ搬出される様になり、日用品なども、遅滞なく搬入される事になつた。のみならず、近來は、この道路を利用して、西國三十三番の札所、谷汲山の靈場へ乗合自動車などが通じ、反面に於て、この靈場が俗化した譏ありとは雖も、往時の邊鄙さは、その片鱗だに残さず、この山村には凡そ不釣合な商店等が軒を並べる様になつて、村は今侵々として、躍進の道程にある。

の立派な道路の構築と、この村の養蠶の將來性を認め、信州諏訪町の××製糸會社が、昭和九年春頃、こゝに製糸工場を創設した爲に、この村の養蠶熱も近來頃に伸

張し、本年など、養蠶だけでも、實に九千貫以上と云ふ大きな數量を産出したのである。

炭は、昨年あたり總數三萬五千俵餘生産したと云ふが、それ等は悉く岐阜、名古屋、或は尾張一宮へ搬出されて消費されつゝある。

も一つ見逃せない事は、この道路の構築によつて、村人の知識欲が非常に旺盛になつた事で、十年前には、夢想だにしなかつた、子女の中等教育を考へる様になり、本年など、この部落からの中等學校入學兒童は、實に二十五パーセントを示してゐる。而し、これには經濟的に恵まれだしたと云ふ、反面のある事を知らねばならない。電燈も灯いた。ラデオも聞ける。日用品などは、居ながらにして購求し得る。製糸工場の煙突も、十年前を嘲笑する様に、青空に煤煙を捌引かせてゐる。

村はまだく伸びるに違ひないが、思へば、一本の立派に改良された道路が、かくまでに恐るべき力を持つてゐる事は、三嘆しても尙足りないのである。

小學兒童實話

地

新 道 路

岩手縣膽澤郡水澤小學校

尋五一組 石川昌男

先程落成式があつた新道路は、勝手町から上町に通ずる道路である。自動車も荷馬車も自由に通れる立派な道路である。舊道路を思ひ、今の道路を見ると、何とはなしに涙が出るやうな氣持になる。

割合に人通りが多い道なのに、細い曲り曲つたでこぼこ道だつた。僕達が分教室に通ふ時、すべつて川に落ちたり、田に足を踏み入れたりしたのは、先達までのことだ。雨の日や雪の日などは、あの途中のことを思つて學校を休みたいと考へた事が何度あつたか知れない。

これからは、そんな心配はなく、喜び勇んで通學するこゝとが出来来る。全く有難い事だ。僕が大人になつたら、先づ道路を良くして、子供達を喜ばせてやらうと思ふ。

道 な ほ し

神奈川縣高座郡綾瀬尋常高等小學校

尋三 劔持モト

私たちの一年生、二年生じぶんは、ちやどろの山の所が雨が降るとぐちやく／＼して、私たちの村の人々は畠に行く時、山に行く時など車を引いて行くのに、土がついたり、すべつたりして、やつとこさつとこだつたが、此の春、村中そう出でそこをなほしたので家のお父さんお母さんや村の人々が大そうよろこんでおられます。

私たちも學校に行く時、大雨が降つても、水ははたの方を通つて川の中へ皆な流れてしまひますから、長ぐつも、あしだもいらなくなりました。今日も朝早くから荷物を引

ひた馬がうれしさうに通つて行きました。

雨が降つても休まず學校へ行つて勉強が出来るので私もうれしくてたまりません。(終)

道路改良

北海道上川郡東川第二尋常小學校

尋五 田 中 三 郎

しとくと降つてくる雨の中を學校へ急ぐ途中、道路の事が頭にうかんだ。こんなに雨が降つても土はちやんとかたまつてゐる。

昔は一步もふみ入れる事の出来なかつた原野も我等の先ばいが死ぬ思をして開いて下さつたので田や畑あるいは道路などになつたのである。だが其の時は通學するのにも足がひざのへんまでぬかつたと言ふ事である、又、旭川へ行くにも朝早く出掛て、其の日の夕方にやつとたどりつたと言ふ事で、今では道路が改良され、電車があるので一

時間で行ける。

此の間までは自動車はめづらしい位だったが今は毎日定期自動車が通つてゐる。これもみな道路改良のおかげである。道路が悪ければどうしたつて車馬は通れない。これだけでも道路改良がいかに大切であるかが分る。つまり道路がよくなれば其の村は發展するだらう、いやもう少し大きく言ふと其の國は發展するだらう。村又は國の發展する一つの原因は道路改良と言ふ事が分つた。だから我等は道路をいためないやうによくかはいがつてやらなければなりません。(をはり)

僕等の道

石川縣羽咋郡北志雄尋常小學校

第五學年 北 山 昌 寛

此の間のことでした。羽咋氷見間の鐵道のことです。前田子しやくさん等が僕等の村を通られました。おむかへをし

て、ていねいに私共はお禮をしました。自動車が大だいもつらなつて通つたのは僕等の村でははじめてでした。

その後、子しやくさんのお話が、新聞に出て居たといつて先生から

「石川縣、富山縣とズーと自動車で通つたがどうも道路が一般に悪かつた……しかし所によつては、まことに手入れの行きとどいた所があつた、多分これは道路愛護のおかげであらう。」と子しやくは申されて居ます、この道路愛護の村といふのははずと知れた君達の村だ、おほめをうけた君達は、大に自重せにやいかん」

と、はげまして下さいました。

僕等の村では毎年七月五日(今年は三日でした)に青年團在ごう軍人、小學生等村中總出で「道路愛護」を行ひます。

草をかるもの、小石を運ぶもの、わだちのあとへ石をつめるもの、みな一生けん命です。僕等も、みぞの石を拾つたり往來の上を掃いたりします。大人も子供も入りまぢつてとてもにぎやかです。こうして村中の道をきれいにして

學校へ集ります。

あついでにたされて道のさうじをするのは決してらくではありません、しかし仕事がすんで往來のきれいなものを見ると、何ともいへないうれしい氣がします。

去年から、能登鐵道のバスが通るやうになりました。僕は道がよくなるので、村が開けるのだなあと、つくづく思ひます。(終り)

無 題

廣島縣山縣郡都谷村

幡 司 好 男

「ガーン／＼」と高い音が心持よく空山に響きわたる。首にはあせが玉のやうに流れる。それをふきもしないで僕はなほも鎚を振下すのであつた。石はきまつたやうに割れてゆく。そうして小くなつた石は車に入れて、三人の友と一緒に掛壁勇ましく、今作しれつゝある村道へ運ぶのだ。

がたく、の山道を僕等が懸命になつて車をひいた。

「少し休まうぢやないか」一人の友がいつた。

「よし少し休んで又やらう」と應じて、その石に腰をおろした。

「もう幾日ほど立つと出き上るだらうなあ」

「さあまだ二週間位わかゝるだらう」

こうした對話の中に僕の頭に學校でならつた道普請の歌が思ひ出された。

みぞをさらへ くさをかりて

われらははげむ われらの村のみちぶしん

僕は聲も大きく、新鮮な朝の空気をすひながら、この唱歌をうたつた、三人の友も思い出したやうにこれについた。

村のために 國のために

つくしたる我等の老人の

こうして僕等はあらゆる勞苦をおします村の爲に働いた。

それから一月ほど後、新らしく出来た村道に自轉車を走らせながら、僕はつくづく思つた。

あゝ道路は、便利なものだなあ、この道が出来ていない中は向ふの小道を自轉車をおしながら、いつたものだと感謝の念がわいてくると同時に、このきれいな道が出来るにも、わづかながら僕等の勞力が入つてゐるんだとよろこんだ。

おゝ美しき道路よ我等がいかに年をとるとも、この地をはなるとも、必ずこのまゝの姿で、この故郷を飾り永久の思出となつてくれよ。

こう考へた時、何で眼前の新道が意のないものに出きようか、いなく、この道におちている、一本のわらも、一かけのガラスも皆、美しき姿をこはすやうに思われてならない。

おゝ、世の人々よ、我等各自の郷土にある、聖なる道路を大切にしようではないか。

「道路を愛せよ」

道 路

石川縣羽咋郡志雄町宇杉野屋南邑知小學校

橋 本 秀 男

このへんは道のせまい所が多く、廣い所が少いので、自動車を通る時は皆道の片すみによらねばならない、又自動車が出合つた時はわざ／＼廣い所までさがつて行かねばならない。こんなことが一日に十度位はかならずあります。又自動車がせまい所でこしやうを、おこした時などは後から來た自動車は皆その自動車のこしやうがなほるまでまたねばならないやうな事も少くありません。

僕の住む杉野屋から羽咋町に行く途中に「文明は道路から」とか「よき里によき道あり」と書いた棒が立つてゐます。僕はその見度にあつた此の道が廣かつたらとしてみじみと思ひます。それで僕は毎年道路愛護デーを定めて、その日には道の修繕をおこなひます。それは五、六年の男

子はてんでにかまや鋏をもつて來てかまをもつて來た者は草をかり鋏をもつて來た者は道のへこんだ所を土でうめ、五、六年の女子はほうきで後をばはき四年、三年、二年、一年の者は石をへこんだ所へもつて行くやうな事をします。このやうにして道は年々良くなつて來ますが、もつともつとよい道にしなければならぬと思つてゐます。

僕等の道路愛護

石川縣羽咋郡加茂村加茂小學校

藤 澤 外 吉

我々は何時も道路を通る。其の時に何か不快な物が散かつて居たり或は危険な所が有つたりすると通るにも通りにくい、其處で来たない物は除き、凹地が有つたら埋めると言つた様にして、何時通るにも氣持良く危い物も無くさつと歩く事の出来る様にしたのものである。こういふ點から我等のやつて居る「道路愛護」の一つである「道路掃除」に

就いて述べやう。

これは校外自治團の事業としてやつて居るが昭和十年六月の役員會に道路掃除をやらうではないかと言ふ意見が有つて皆賛成した。其のしばらく後に道路愛護の活動寫眞が有つて之を見、話を聞いたりして心は急に勇み立つた。其處で心が一致し其れよりやる事にきまつた。此れは毎月第一日曜と第三日曜に行ふので有る。

其の日になると、箒や鍬を持つて、掃除に出る。すると、道を通る人々は「あの子供等は何しに行くのだらう」と、言ふやうな顔をして通る。斯の様にして集りすぐ作業に取りかゝる、やりかゝつたら一心不亂にやる。約一時間程で作業を終了するので有るが、非常に綺麗になつて居る。小さい心、小さい腕でも一つに合してやつた後を見ながら箒を手にくく皆我がなつかしい家へと急ぐので有る。道を通る人々は皆「美しい道にしてくれた」とにくく笑ひながら通つて行く、其の姿を見ての我々の喜びはどんなで有らう。

この小さい奉仕作業に依つて人々はどれ程利益を受けるかわからない。もし、夜道を歩いて居て、凹地が有るのも知らずそれを足でも落としたら困る。一度落ちれば、又そんな所は無いかと氣がかりで足の運びも遅くなると言つた様なわけで美しくならされて有つたら、何の心配もなくさつさと歩く事が出来る。

貨物自動車、客自動車、荷馬車の往來繁しい我村では特にかうした道路愛護奉仕の作業が、もたらす効果は單に交通上の利便に止らず村の産業上に大なる貢獻が有ると思ふ。小さい力も共同すれば偉大なる力となる事をつくづく感ずる。今や村の道路愛護と並んで我等の此の事業は村の花で有る。

中 橋

神奈川県高座郡綾瀬尋常高等小學校

高二 小山 シズ

家の前を流れてゐる川は小さいけれども今は石橋になつてゐます。此の橋の名は耕地の真中にあるので中橋といつてゐます。此の石橋の出来る前は土橋でした。短い間の耕地でしたが、家の方側から向ふ側へ渡る道は近くには一筋しかなかつたので、かなり人通りが多く度々橋に穴があいては行人が困難するのです。家でも島の往復に始終通るのですが、土橋の爲、土が崩れ中心に穴があいて困りました。

時々お父さんが板を持つて行つては、穴をふさげ、丸棒を持つて行つては、土の崩れを防いでゐましたが、大勢通る事としてすぐにこはれてしまひます。

すると村で相談して其の附近の人が集まつては橋を繕ふのでしたが、土橋ですからすぐにこはれてしまひ、其所を通る人々は遠廻りをするのでした。それが昭和八年に石橋に變り行人に何程か便利を與へた事であらう。

家でも島の往復に如何程便利であらうか、そして前の土橋を渡る時は、心配しながらであつたが、今は平氣で車に

乗つて、歌などをうたひながら通る時の氣持よさ。

あゝ土橋の不自由は消え去つて人に便利を與へてくれた石橋よ——と感謝せずにはいられない。

村の新道

新潟縣北魚沼郡川口村大字牛ヶ島泉水尋常小學校

六學年 山 田 甲

僕たちの村は以前細い道で、入り口から見ると此の奥に村などないのだらうと思ふ程、粗末な道であつた。

それが一昨年から新道に改良された。僕たちが學校に通つて道を作る所をはかつてゐた。

その中に大勢の工夫さんが来てトロツコで土を澤山つんできてまいたり、高い所を堀り取つたりして、だんく道_の形が出来て來た。見る／＼うちにたんぼはつぶす、島はつぶす、村の中では家をよそにうつしてまで道をこしら

へた。

始めてから約半年餘りですつかり出来上つた。早く出来ればよいなあと待つてゐた僕達にとつては大變うれしかつた。

友達と大勢で、廣い道を足並そろへて行くのは本當に愉快だつた。

始めて活動寫眞の樂隊をのせた自動車が入つて來て、この新道にピラをまいた時は、なんだか町の様な氣持がした。しかし自動車の入り始めは、まだ道が固くならないので、通るたびに土がへこんで、よく走らない事などあつたが、二冬も雪の下になつたので今ではすつかり道がしまつて、如何にも走りよささうである。

今では毎日の様に自動車が入るので村の中は賑かである。新道が出来て便利な事は澤山ある。村の中で桐や杉をきつた時など、自動車を持つてゆくし、村で石とりをした時は河原のそばからトラツクですぐよそに運ぶ事が出来る。

又今年の春蠶に桑が足らなかつたら、群馬縣からどん／＼

桑をつんだ自動車が入つて來た。それから一番有難いのは、急病人の出來た時にお醫者さんを頼むと、すぐタクシーで來て下さる。そのお蔭で、これまであぶない命をたすかつた人が、何人もある。

僕たち牛ヶ島通學團では此の間この新道の草とりをした。晝休時のあつい日であつたけれども、誰もいやがるものもなく、皆が進んで働いた。

又この新道を作る相談を始めた頃は、大切な畠やたんぼをつぶされるといふので、かなり小言を言ふた人もあつたさうだが、今では村全體の人がこの新道に感謝してゐるのである。

道を大切にしませう

山形縣東田川郡黒川小學校

尋四男 鈴 木 久 松

去年私たちが村の道をこしらへる事になりました。まづ

うんばん車で川から石を持つて来る時坂が急でみんながあせを流して引上げて來ました。それを道のほれた所にしいてきんぐでうちしづめてなほしました。又道の細くなつて居る所は草を取つたりくわでおこしたりして廣くしました。

又大そうなんぎをして川から石を引上げ自動車でほれた所もなほしました。出來た時には大そうりつばになつたのでみんながうれしさうなかほをしてうちへかへりました。その次の日道をおく人を見るとじてんしやも自動車も氣持よさそうでした。よい道をおく時は氣持よいものです。

道路愛護日

福岡縣嘉穂郡二瀬町片島小學校

高二 田中ハツ子

私達が、日常生活するに最も深い關係を有してゐるもの

は、即ち道路である。何時何處へ行くにも、道路を通らな
い事はない。それ故、私達自分一人の爲ではなく、社會の
人の爲に、努めて道路を通り易いやうにしなければなら
ない。瓶切一つ落したからとてさう悪くはないだらうと思ふ
人がある、然し「ちりも積れば山となる」といふ諺の如く、
一人くが、かういふ氣持を持つて落したとしたならば、
どんなに道路に瓶切がちらかる事であらふ。常に道路を愛
し、保護して行くのは自分自身の爲ばかりでなく、社會の
爲又國の爲である。

道路愛護は、國民の道德である。私達は常に氣をつけ
て、道路にちらかつてゐるものはどんな小さなものでも拾
つて、道路を清潔にし、又人々が道路を通つた時、不愉快
な感じをおこされないやうに努めねばならない。

道路を見て國民の道德如何がわかる。道路を清潔にする
のは、國民國家の譽である。

新しい道路が開設されて

香川県三豊郡詫間村詫間尋常高等小學校

高二 林 正 男

僕の家の裏にも待ちこがれてゐた道路が新に開設された。今までは凸凹が多くて雨が降ればぬかるみになり、田に水を入れようとするとな面の水と化し、徒歩で通るにも自轉車で走るにも種々不便であつた狭い田圃路も、今では幅二間程といふ大きい道路になつてしまつた。今日は始めて新道路を自轉車で走つて見た。凸凹の少い然かも一面になれた道路は、今しも夕日に照らされて銀の帯の様だ。走つておつても乗心地がよい、隣村へ行くにも一筋路だ、一、二年前は田圃の一本路を重い荷物を下げてとぼ／＼とよく使ひに行つたものだ。今から考へればいくら苦勞をしたか解からない。昨日も隣村の百姓さんらしい人が、道路を通りながら「こんな大きな道路が敷かれたから穀物の收穫にも、

肥料を施すにも、便利だ。私も今日始めて通つて來ました。が先に通つて居た道の半分程の時間で來られましたよ。」
「私も其の通りでしたよ。此の村にも良い道路が出来たものだ、私の村にもこんな道路が一つほしい。」等と話しながら通つて居た。僕の家は道路が作られるまでは、田圃の中の一軒屋だつたが、今では自動車自轉車荷馬車等の絶へず往來する道路添ひの家になつて、夕方などには近所の子供達が何をするか「わい／＼」とはしやぎ、夏になると涼みの客で一ぱいだ。此の様に賑になつたから家の鶏は朝鳴かないで夕方鳴く様になつた。僕の家は田舎の一軒屋から、俄に町へ出た様だ、青い／＼田圃ばかりであつた近景は、道路が敷かれたので一段と引き締まり、ゆつたりとしたやうに見える。『道路といふものは便利だ。』急ぎの用の時畔路を自轉車をかついで走る心配なく、一筋の廣い道路を心ゆくばかり走ればよいのである。智識の進んだ皆様廣い大きい道路を幾つも設置して我々の利益を増進し、我が皇國日本の發展に努めよう。